

中川駅周辺福祉のまちづくり重点推進地区事業の事業目標

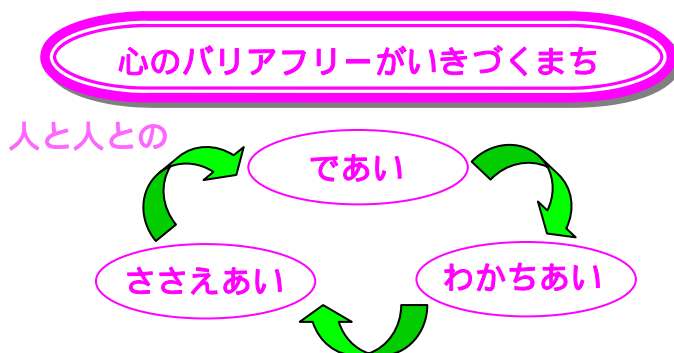
中川地区における 人と人との「であい・ささえあい・わかちあい」の推進

中川地区では、「都筑区地域福祉保健計画」に基づき、中川地区行動目標として

- 目標1 様々な活動や行事をきっかけに顔の見える関係を広げよう！
- 目標2 地域の情報やルールをわかりやすくPRしよう！
- 目標3 若い世代に地域活動への参加を呼びかけ、担い手を育てよう！

を掲げています。

今回、福祉のまちづくり重点推進地区への指定を契機に、都筑区地域福祉保健計画の理念である「人と人との『**であい ささえあい わかちあい**』」を実感できるまちづくりの取り組みを、一層、推進します。「人と人との『**であい ささえあい わかちあい**』」の3つの「**あい**」が相互につながり、相乗効果を生みだしていくよう、地域や団体・学校・事業者・行政とが協働で推進し「心のバリアフリー」＝「福祉のまちづくり」の風土づくりに取り組みます。



人と人との「**であい**」の機会を増やします。

地域で実施している祭りや公園愛護会活動などの行事や活動への参加や、日常の生活で挨拶やことばをかけあうなどコミュニケーションを豊かにします。

人と人とのつながりや、活動と団体間がつながるなど地域のネットワークを広げていきます。

地域でよりよく生活するために、人と人とのつながりを大事にする気持ちや意識を醸成していくことが大事であることを伝えていきます。

人と人との「**ささえあい**」の輪を広げます。

地域の行事や活動、ボランティア活動など様々な活動をとおして、個人や団体、地域がお互いに支えあう、今日的な「お互い様」、「持ちつ持たれつ」、「ちょっとした心遣い」など相互の関係づくりを構築していきます。

また、誰もが、困った時、助けてほしい時に、個人が問題を抱え込まず、気軽に「手を貸してほしい」といえる地域の雰囲気・環境づくりを進めていきます。

それぞれの立場や価値観を理解する「**わかちあい**」の機会を増やします。

高齢者や障がい者、小さな子どもづれの人、地域の人たちが活動や行動を共にして、お互いの立場や価値観などを理解する機会やお互いに寄り添っていく機会を増やしていきます。

一人ひとりのちょっとした心遣いや優しさを感じることができる地域を目指していきます。

また、個人や団体が知識や技術を存分に活かせる地域は、活動者や団体がいきいきと豊かな生活を送ることができます。誰もが「担い手」であり、「受け手」であることを認識し、わかちあいの仕組みづくりを進めていきます。

中川駅周辺福祉のまちづくり重点推進地区事業 行動計画

「心のバリアフリーがいきづくまち」へ16のプログラム

今回、事業目標を実現するために、協議会では、4つの分科会を設け、「誰が・何を・どのように取り組んでいくのか」について、検討し16の項目からなる行動計画を策定しました。

4つの分科会と行動内容

「地域ケアプラザ等の複合施設の機能を活かしたまちづくり」分科会

複合施設が持つ機能を活かして、地域への情報発信や施設や機能の開放などを積極的に行うことによって、地域に根ざした福祉保健の拠点づくりを進めていきます。

「商店街の活性化（空き店舗の活用）と障がい者の社会参加の促進」分科会

障害者地域活動ホーム「つづき地域活動ホームくさぶえ」と区内の作業所が連携し、空き店舗を利用した作業所（地域活動支援センター）をつくります。事業の立ち上げにあたっては区内NPO法人などの参画を得ます。創造的活動、生産的活動や販売ルート、PR方法など斬新な発想でプロデュースし、多くの人に親しまれる作業所をつくります。

また、障がい者に対する理解を深めるため、地域の人との交流の機会を増やすとともに啓発活動を行います。

「公園を活用したふれあい&健康づくり」分科会

地域住民（さわやかスポーツ普及委員等）が主体となり、周辺の公園を利用し、体操や軽スポーツなど定期的に行うことで健康づくりをしながら、子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加し、ふれあえる場をつくります。

「中川のまちのにぎわいづくり」分科会

商店街、武蔵工業大学、NPO法人が、中心となって開催している「中川ふれあいフェスタ」に、複合施設、協議会、地域住民が参加し、さらに活発化させます。併せて武蔵工業大学と連携し、まちづくりに関する情報発信を行います。